

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	メリーライフ株式会社 グループホーム里の家千歳 スイセン	評価実施年月日	平成21年5月1日
評価実施構成員氏名	長谷川 恭一 野田頭 賢治 片岡 昭男 小橋 幸子 水野 周 岩下 雅子		
記録者氏名	長谷川 恭一	記録年月日	平成21年5月1日

北 海 道

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より事業所独自の理念を掲げており、現在もその理念の達成に向け取組み継続中である。グループホームが個人様の家と感じられる事や、地域に根ざす事を目標とし取組んでいる。	○ 理念は法人の運営方針にも深く繋がる部分である為、その理解と推進には常々指導教育を徹底しているが、入居されている全ての方の暮らしがより良いものとなるよう、今後も更にサービスの充実を図っていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	管理者は日頃から申送りやユニット会議で理念や方針、目標等を日常的に話している。また、朝の申送り時に理念の申し合わせをし、その共有と実践に向け意識して取組んでいる。	○ 今後もリーダーや管理者は日頃から理念にそったアドバイスを心掛け、スタッフ全員が出来るだけ同じ方向を向いて日々の業務に当たることが出来るよう取組んでいく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取組んでいる	地域やご家族様にとどの程度理解され浸透しているかの判断は困難であるが、ホーム内の見易い位置への掲示やパンフレットへの記載及び運営推進会議内でもその内容に触れる事で理解が深まるよう努めている。	○ 地域の方に過度の宣伝行為と受取られない程度で定期的な町内の集まり等で説明を行っている。また、ホーム内の見学案内の際にも理念について触れ、ホームの目的や機能についても説明を行っている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃から散歩などで近所の方々との挨拶や簡単な会話などで交流が図られている。また、たくさんの野菜や花を頂くなど、気軽にホームに立ち寄っていただいている。	○ 散歩や買い物に出掛けた際は、挨拶を心掛け地域の行事等へも積極的に参加するよう努め、交流を更に深め、今後も地域との関わりを深めていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の催しや幼稚園、小学校の行事、市民文化祭等に参加し日頃から地域交流を深めている。また、管理者は自治会の集まりにも参加し関係を深める働きかけを行っている。	○ 以前によくお誘いしていた三味線や民謡のボランティアの活用など頻度が減ってきたが、最近では地域のコーラスグループに来て頂いたりしている。今後も社会資源の利用を積極的に行なっていく。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の様々な集まり（福祉委員会等）や催しに参加し認知症について話しをしている。また、地域の方が集まれる機会としホーム駐車場を利用して、子供みこしの休憩場等の企画を実施しており、それらの集まりの中から事業所として取組める事の聞取りにも努めている。	○ 現状では事業所内の質向上と環境整備を推進する事が当面の目標としているが、これらについての更なる向上が地域貢献に直接繋がると考え今後も意欲的に取組んでいく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し常に評価結果について改善向上意識が持てるよう各会議でも評価項目を取り上げ検討が成されている。	○	全体会議等でも各ホームとの比較検討等行っており、切磋琢磨出来る様情報交換の場を設けている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催をしており、各関係者様方との話し合いも円滑で実りあるものとなってきている。グループホーム全般の役割や細かな取組みに至るまで理解が深まりつつある。	○	話し合いの中で挙げた様々な意見を更に積極的に実施し、近隣への参加呼掛け等も推進していく事で運営推進会議の内容が実際に活かされている事を知って頂くよう努めていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携について、本部職員が担当窓口として主な働きかけを行っており、その時々により事業所管理者等も行き来している。	○	今後も更なるサービス向上について市町村より意見を伺い、それらの意見を柔軟に受取り活かして行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者様があり、制度の内容等について職員理解を深める努力はしている。最近では、外部の研修で権利擁護について学ぶ事が多く、その内容周知にも努めている。	○	今以上に全職員の理解を深める為、都度の会議や研修参加等で知識を得られるよう努めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部及び管理者より高齢者虐待の定義やその内容詳細について各会議で都度説明行っており、入居者様が外泊等された後にも身体確認等行う事で、ホーム内外での虐待防止に努めている。	○	今迄に虐待の事実はなく、ホーム内での安心した生活の支援を行えているが、今後更に諸対応に注意し虐待防止に努めていく。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を掛け各項目について説明しているが、契約前にも不安や疑問について解消出来る様対応行っている。入居申込みを受ける前に必ずホーム内見学案内も実施している。	○	利用される事での利点は勿論であるが、リスクについても十分説明し納得された上での入居を推進していく。グループホームの役割や機能について更に深く説明する事で理解を深めて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	小さな訴えや不満等にも耳を傾ける姿勢をとっており、明らかに苦情と思われる事は速やかに所定書式にて管理者及び本部に提出し、迅速丁寧な解決に取り組んでいる。	○	現在苦情と捉えられる訴えはないが、今後継続して訴えを汲み取る姿勢で対応を行っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や定期的な電話連絡、月に1度送付する里の家だよりを通じて入居者様の日常風景をお伝えしている。金銭管理については使用の都度ご家族様に報告し毎月出納帳と領収書を送付し内容を明らかにしている。	○	今後もご家族様とのコミュニケーションを深め、ホームでの入居者様の様子をより明確に伝えていくよう努める。また、写真やビデオ等利用し、生活風景を知って頂く工夫も行っているため、今後も実施していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設ける事で、話しづらい事への配慮を行っている。また、相談窓口への電話回線も設けており、受入体制を整えている。	○	家族様からの意見や苦情、不満等については本部に相談窓口を設けているが、面会事等に聞かれた訴えについても記録として残し対応検討する流れが出来ている。今後も同様の流れと対応を継続していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員意見の反映については、毎週定期的に本部職員が現場に入り各種会議の際及び日常業務の中で聞き取りを行い、その内容について本部で検討された後、必要と判断されたものについて反映されている。	○	入居者様の生活上必要な物品等の設備に関する職員意見が殆どであるが、随時改善対応行っており、より生活し易い空間作りにも努めている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	特に入居時には管理者やリーダーが勤務に当たるよう調整を行っており、それ以外の特変時についても必要範囲でシフトの組み換えを行っている。しかし、普段日常については、全職員が同一の対応が取れるよう指導教育している為勤務変更はない。	○	現状として入居者様の状況に合わせた職員配置は困難である。しかし、職員全体が可能な限り統一对応を行えるよう指導教育する事で、ケアの質向上を目指している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員異動は極力無いように勤務調整を行っており、馴染みの関係作りや家庭的な環境づくりの妨げとならないよう配慮をしている。また、ご家族様にも不安を与えないよう、異動等があった場合は事前・事後に速やかに報告している。	○	職員の急病等の止むを得ない場合に限り一時的な異動はあるが、普段よりユニット間の交流も盛んである事から、ホーム内全ての職員と入居者様が顔馴染みの関係を築けている。今後もホーム全体の交流機会を増やしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修及び外部研修の受講推進を行っており、勤務上受講が出来なかった職員についても後日ユニット会議や申し送り等で会議の内容説明や、情報共有に努めている。外部の研修についてはスタッフの受講希望が強く、勤務の都合に合わせて積極的に受講している。	○	内部研修が始まってからすでに受講者がユニット内に3名おり、現場で活躍している。今後も外部や内部の研修も勤務の都合等考えながら積極的に受講していき、現場で知識をいかしていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が主催する管理者会議や、事業所が加盟している協議会が主催する研修会等に積極的に参加する事で同業者との意見交換等が行われている。	○	守秘義務等の兼ね合いもあり中々具体的な内容までは意見交換はなされないが、互いに困っている事や職員の質向上について同じ目線で話し合える関係を築いて行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	互助会の設置を行い忘年会や新年会等の実施を行っており、本部と職員のコミュニケーションの場を設け、話が出来る環境を作っている。しかし、日常業務内での休憩時間の確保についてはまだまだ不十分なのが現状である。	○	日常業務内での休憩時間の確保については現在少ない時間ではあるが設けることが出来ておりスタッフはメリハリのある業務実施に繋がっている。今後もスタッフ間で協力しながら休憩時間をとるようにし、休憩の必要性や重要性なども考えながら実施していく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の経験年数や資格取得に応じて賃金に反映する事で向上心に繋げている。また、それ以外の日常業務内での取組みや個々の成長過程等も確認し、能力を伸ばせるよう個別指導教育も行っている。	○	スタッフ・ユニットとそれぞれ目標を掲げており、時々目標を見直したり、日頃の取り組みを再確認する等して向上心を高めている。ユニットリーダーは定期的にユニットスタッフと個人面談を行い、適切な評価やアドバイスをし、向上心につなげている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面談及び見学案内の際に不安な事や希望についても可能な限り聞取るよう努めており、本人様以外の親族の方にも情報提供依頼をし、本人様との関係が早期に身近なものと感じられるよう努めている。	○	家族様と離れ独居及び入院されていた方の希望等の聞取りには困難を極める事もあるが、入居してから密に関りを持つ事で情報収集し、それにより得た情報を可能な限り早期に実現し満足度に繋げる努力をしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	現在まで殆どの場合が事前の見学案内及び面談等で納得の上、安心して申し込まれており、その後の本人様の生活や職員対応について事業所側に任せて頂けている。また、些細と思われる出来事についても都度連絡する事で更なる安心感に繋げる努力をしている。	○	初期に築けた信頼関係をより深められるよう、今後も密な連絡体制を継続し、本人様の生活風景や職員対応の疑問点等についても伺っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様の希望が一致しない場合もあるが、その際は職員も含めた三者間で話し合いを持つよう努めている。支援の優先度についてもケアプラン上でも説明を行い、専門的な見地からもご家族様にアドバイスしながら決定している。	○	相談時にはまず、本人様及びご家族様にグループホームが自立支援の場である事の理解を深める事に努めており、それらの理解を元に優先的な支援について希望を聞取っている。今後も対応継続し、必要支援の見極めを行っていく。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人様が安心感を得られる対応や環境について、本人様及びご家族様、諸関係者様より情報収集を行い、早期に馴染みの関係が築けるよう努めている。本人様が納得されるまでに時間が掛かるケースもあるが、現在の所、事前対応や職員からの積極的なアプローチなどによりスムーズに馴染めるような状況が出来ている。	○	本人様の意思確認が明確に出来る方とそうでない方がいらっしゃるが、特に意思確認が困難な方について満足度や安心感を理解把握する事にも努めている。現在は利用者の安心した表情等からサービスへ馴染んでいる様子がうかがえる。スタッフは新たな情報を知り得た場合の迅速な対応についても今後継続し実践していく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理・掃除・畑仕事等の場面で入居者様に教えて頂きながら一緒に活動する事で、共に支えあったり楽しんだりする関係を築いている。また、スタッフは入居者との関係性が深まる事により、人生のすばらしさや生き方を学ぶ事が出来ており、一方的な支援にならず、存在価値を感じ、お互いに支えあう状況になっている。	○	日常会話を大切にし、会話の中からも昔の体験や、格言のようなアドバイスを日常的に受けている。まずは非言語を含むコミュニケーションを大切に、今後も例えば本人が上手に出来なかったとしても、本人が輝ける場面作りを行い、それをさりげなくサポートしていけるような支援をすすめていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	事業所側の対応として細かな情報の伝達をご家族様に行う対応を継続している。遠方に住んでいたりと、各ご家庭の事情もあり一部の家族はなかなか本人と携わる事が出来ない状況であるが、概ね家族の協力は良いユニットである。特に行事などでは普段なかなか一緒に過ごせない状況を考えると感情の共有は出来ていると思われる。	○	年に一度の家族会を2度実施しており、それ以降家族様との関係はより深まっており、関係は良好である。行事や日頃の電話連絡などにより些細な事でも報告し合える関係作りが出来ている。気兼ねない関係作りが本人を支える上で重要である事をまずは大切に、関係作りを行っていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を実施したり、面会時には居室ではなく、ホールにてスタッフも混ざりながら談笑するなど、さりげない橋渡しをしたりしている。深い介入はプライベートの問題もあるが、現在、関係は良好であると思われる。	○	ご家族様にはなかなか伝わりにくい日頃からの本人様の思いや気持ちを、普段関わっている職員が汲み取り、分かり易く説明したり、認知症の病気の症状をふまえながら家族に説明するなど、今後も継続して関係の支援を行っていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得ながら、昔からの友達や家族と再会したり、会うことができている。今後も手紙を書いてみるよう誘ってみたり、電話をする機会を設ける等、関係を継続できる支援を一部の入居者ではなく、9名の入居者に行っていきたい。	○	千歳市内での文化活動や、なじみのある商店街、スーパーなど以前から利用していた場所での買い物や、そこで出会う昔ながらの友達と会話する等、今まで普通に行ってきたことを今後も支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中で自然と仲の良い関係が築けており、職員は行事やレクリエーション、座席配置等でさりげない支援を継続している。関係性の難しい方同士でも行事などではテーブルを一つにし食事をしたり、行事と一緒に参加するなどして全く関わらないような状況にならないように注意している。	○	トラブルが予想される入居者様方の関係性に配慮し、うまくバランスや距離が保てるよう関りを持ちながら対応支援を行っている。また、各入居者の特性を生かし、手伝ったり、フォローするような場面も多くみられ、さりげない場面作りが出来ていると思われる。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居となられる際には事業所側で次の行き先について責任を持ち支援させて頂いており、退居された後もご家族様が遊びに来て頂ける等の関係が築けている。	○	退居された方が入院されている病院や施設に立寄った際には、可能な限り声を掛ける等の配慮を行っている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活において普段何気なく行う会話や声掛けの中から希望や意思の聞き取りをなげなく行っており、出来るだけ本人の意思決定能力を引き出している。また、表情や反応等からも気持ちや思いを汲み取る努力をしている。	○	表現する事が困難な入居者様に対して、本人様にとって選び易い選択肢を設けたり、本人の何気ない表情や、時間をかけた対応、絵やジェスチャー等非言語でも汲み取る工夫を今後も継続して行っていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様より聞き取ったバックグラウンド情報を利用して日常生活に活かす努力をしている。また、日常的な会話等からもバックグラウンドを聞き取り、それらの情報を職員間で共有している。ご家族さまにもバックグラウンドがいかに重要であるかの意味も伝えながら聞き取っている。	○	サービス利用、入院歴等については把握しているものの、どのような治療・手術を行ったのか等について一部具体的ではない為、今後更に具体的内容の把握に努めていく。まだまだバックグラウンドが不足していると思われるので今後も本人や家族からの聞き取りを十分に行い、情報を共有していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフの主観でその人の生活リズムや有する力を決め付けず、日常の支援の中でさりげなく、出来る力や出来ない部分、一日の流れや、健康状態を汲み取り、見極め、情報収集し、スタッフ間で情報を共有し、より良い生活支援を心掛けていく。	○	今後もスタッフの主観でその人らしさや暮らしのありかたを決め付けず、本人が得意としたり、調子がよかったりする現状（プラス面）も、苦手としたりする部分（マイナス面）も客観的に判断し把握していく。実際の思いや体調が悪い場合もあるので、細かな見極めをしていく。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議や日頃の意見交換、面会時等を利用して意見交換を行い、全ての職員の気付きやご家族様の希望等についても取り入れ計画を作成し、それに基づきケアの実践を行っている。	○	スタッフは日頃から本人様の意見や気持ちを汲み取る姿勢を持ち、また、ご家族様の意向や気持ち等も面会時なども利用して話を十分に聞き、その情報を皆で共有できるようにしている。今後も知りえた情報を十分に反映し、スタッフの一方的な介護計画にならないように注意していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	明示した実施期間の終了時だけでなく、状態変化や入退院等があった時にも随時話し合いの場を持ち、計画の見直しを行っている。ご家族の希望や本人の体調の大きな変化、提携医療機関からの指示などにより随時ケアプランの評価・更新を行っている。	○	常に入居者様・家族の変化やニーズを見逃さずに必要に応じた見直しや評価を行う事で現状に即した計画の作成に努めていく。そのためにも日頃から介護計画を意識した取り組みや、ご家族との話し合いを設ける機会を大切にしながら業務を行っていく。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人様の特徴や変化、ケア内容や結果等を具体的に個別記録に記入し、スタッフそれぞれの記録を意識するようにし、職員間で情報共有する事で日常ケアや計画作成に活かしている。ケアプランに沿ったケアの実践も意識して取り組むようにしている。	○	スタッフの一方的な決め付けや思い込みのような記録にならないよう、客観的な記録作成を行い、後から読んでも状況がわかるような記録作成を意識している。また、何気無い観察記録にならないよう、ケアプランを意識した実践結果を記録に残していくよう取り組んでいく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様及びご家族様の希望を聞き取り、病院でのリハビリ支援や外出、受診希望等可能な限り要望に応えられるようサービス提供と支援に努めている。その時々々の意向の変化に迅速に気付けるよう関りを深めている。また言い易い環境や配慮を継続していく。	○	事業所側の対応とし様々な要望に応える心構えは出来ているが、まだ十分に要望等を引出せているのか判断が難しい為、今後も継続して関りを深める対応に努めていく。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方による週に一度ボランティアの方を受け入れており、入居者もボランティアの方々の受け入れを喜んでおられる。またボランティアサークルの方々による行事や消防署による避難訓練等で地域との協力は深まっている。	○	開設時より地域に根ざした感が実感としてあり、地域の方々からの呼掛けや、事業所側からのお誘いについて円滑な交流が行なわれるようになっており、気兼ねない関係作りが年々深まっていると感じている。入居者の方々も地域の方と顔見知りになってきている様子。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーに相談する機会はないが、医療機関等のソーシャルワーカーに相談する事は多々ある。本人様やご家族様の意向を十分聞き取り、他サービス活用について検討するよう努めている。	○	同法人で運営する他事業所のケアマネジャーとケース等について相談する機会があり、事業所の機能を十分活かし本人様のより良い生活について検討が行えている。今後も更に同様の取組みを継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じ、包括支援センターの方からのアドバイス等受けられるようになってきている。具体的内容の話しになるケースはまだ少ないが、(個人情報の兼ね合いもあり) 必要性に応じて協働していく考えである。	○	具体的事例がまだない為判断は難しいが、今後も運営推進会議内だけでなく、その必要性に応じ随時協働して頂けるよう関係を深めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様の希望がある場合は、その希望に沿った医療機関の受診を行い、それ以外の方は協力医療機関を受診し都度適切な医療支援が受けられるよう努めている。協力医療機関からの指示で他病院・他専門医への受診支援も随時行っている。	○	里の家に入居前にかかっていた病院受診の支援や、本人が希望する病院への受診などで本人の安心感に繋がっている様子。今後も入居者様、ご家族様の希望を取入れ本人様・家族が納得できる受診体制を継続していく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関を確保しており、医師・看護師は認知症への理解が深い為適切な指示・助言を受ける事が出来ている。また、受診時にも様々な配慮をして頂いている。	○	今後も現在の関係を継続していけるよう協力し専門的なアドバイスを頂く事で日常ケアに活かしていく。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師に訪問診療及び受診時に相談しアドバイスを頂く事で、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。	○	看護職の方の訪問・協力に限らず、栄養士による栄養指導なども行われており、健康管理に役立っている。今後も直ぐに相談が出来る関係を継続し更なる連携を深めていく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合、入居者様の日常生活状況やケアについて情報提供及び相談をし、また早期退院の為に話し合いや退院後の経過観察についてもアドバイスを受ける等の連携を図っている。	○	入院時にはスタッフが交代で面会に行き、その都度病院関係者より情報を得てホームやご家族に報告している。今後も早期退院に向けた連携を維持・継続していく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについて事前にご家族様及び本人様意向を確認する事に努めているが、時として思いの相違は伺える。その場合についても専門的な立場から助言等させて頂く事で現在まで円滑にターミナルについてのご理解等が得られている。	○	今後、更にターミナルケアを望まれる方が増える事が予想される為、職員個々の知識や技術の向上に努め、いかなる場合においてもスムーズにターミナルケアが行える状態であるよう日々スキルアップに努めていく。日頃から家族とのコミュニケーションとターミナルについても一緒に考えていく機会を設けていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	チーム全般において職員個々の能力差を可能な限り縮めるよう、日々の業務内及び各種会議や研修の場を利用し知識、技術の向上、共有が出来る様努めている。また、日頃から連絡事項等も正確に伝わるよう確認の徹底を図っている。医療行為が必要になってきた場合も医療機関と連携し、適切な支援ができるよう見極めながら対応していく。	○	チームケアの向上については様々な要素があり、個々の能力、職員間の声掛け、情報収集、情報共有その他にも多々あるが、これらが全て円滑に出来、十分な内容が伴う事でチームとして力を発揮出来るという事を今後も職員指導の一環として行っていく。また、情報を共有し適切な判断をしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居時の精神的な不安やストレスを軽減出来る様、本人様の関係者と十分な情報交換を行い支援を行っている。また職員は場所が移り変わる事でのダメージがある事をしっかり認識、理解して関わるようにしている。	○	今後もダメージを防止する為にご家族様やその他関係者と連携を深め支援を行っていく。特に退去時には書類等を活用し、何度も足を運ぶ等して情報をスムーズに伝えられるよう今後も継続して実施していく。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	排泄時の声掛けだけでなく、本人様の汚れや臭い、食べこぼし等の時に対する声掛け内容に十分配慮し、言葉を選びながら慎重に対応している。記録も露骨に記入するのではなく、さりげなく記録業務に携わり、記録を広げたままで傍を離れないように気配りしていく。	○	今後も相手の立場になって考える事や、尊厳を持って接する努力を行っていく。また、時間が経過し、慣れが出てくると声かけがおろそかになる場面も出てくるので、時々リーダーが客観的に見直しをおこない、評価・指導・アドバイスをしていく等してプライバシーの配慮をしていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	選択肢を設け本人様に選んで頂いたり希望を汲み取り生活に活かす場面作りを行っている。思いが言葉にならなったり、言葉に表せない方々が居るため、表情からも汲み取れるよう観察していく。	○	希望を汲み取り易くする為に写真や絵を使って選択して頂いたり、TVや新聞、普段の会話の中からも情報や希望の把握に努めている。また、要望や希望が言い易い環境づくりなども支援していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や、夜間の睡眠状況などを考慮し、安全に配慮しながら、出来るだけ自分らしく一日を過ごせる様支援している。それぞれの生活ペースを守りながら、自由な毎日を送られている。横臥位することを希望する方が居ても、本人なりのペースである事を理解、尊重しながら対応している。	○	今後もスタッフの都合で一日のペースを作るのではなく、入居者それぞれの生活リズムを大切にしながら、各本人様の希望に沿った毎日が送れるようさりげない支援を行っていく。夜間は職員配置人数上やむを得ず安全、睡眠を優先している。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服を選んで頂いたり、化粧をして頂けるよう対応を行う事等おしゃれへの支援を継続しており、個人様様の個性を引出す工夫に努めている。化粧品購入なども行事の際に一緒に行ったりしている。また、理容の希望があった場合、本人が以前通っていた場所への利用も行った事があり、非常に満足されていた。	○	入居者個人様様の好みを把握し、能力や状態に合わせその人らしいおしゃれの支援を行えるよう更に努めていく。2ヶ月に一度程度の理容の出張サービスを受けており、本人の希望や要望に合わせたおしゃれの支援を行っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	さりげなく食べたい料理を開き出したり、チラシやTVなどを見ながら一緒に献立を考えるなど、何気ない会話から好みの把握や献立作りを行っている。また、簡単な下準備等はスタッフと一緒に行う等、出来る力を利用した家事参加を実施している。	○	今後も各入居者の持っている力を引き出しながら、準備や片付けになどの家事に参加していただいたり、食べたいものを聞き取る工夫などを随時行っていく。また、肉を焼く、鍋からよそうなどの食事の楽しみ方の支援も実施しており、今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつは好みの物を開取り提供している。飲酒については行事等の特別な日に少量飲まれる方がおり、その提供には十分配慮を行っている。また、購入の際にも一緒に選んだり、自分で購入する等選ぶ時点から楽しみを持てるよう支援している。	○	喫煙についてはホーム内禁煙となっており、全入居者様及びご家族様に事前説明を十分に行う事でご理解頂いている。以前喫煙していた方もホーム入居後は喫煙の要望は見られておらず、不満の表出もないため、自然な形で禁煙の形に移行できている。
56	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人様様の排泄パターンを把握し自立に向けた排泄支援を継続している。排泄状況が良くなりオムツ使用から綿パンへの移行する方もおられる。また、入院後オムツの使用となり退院する方もおられるが、綿パンへの移行などへの支援もケアの目標としている方もおられる。	○	今後もそれぞれの排泄リズムに合わせた支援を行い、その時、その日の状況に合わせた排泄の支援を行っていく。また、外出や体調など、その時の状況に応じてオムツと綿の下着を使い分ける等工夫をしていき、自立支援をすすめていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や順番は出来る限り本人様の希望を取入れ、くつろいで入浴して頂けるよう支援を行っている。また、本人様と一緒に着る服を選んだり、お湯の温度や時間滞、洗い方、洗う道具など出来るだけ本人様が今までの習慣どおりの入浴ができるよう支援している。	○	入浴はスタッフとのかかわりが長く持てる時間でもある事から、入居者それぞれのペースやプライバシーに配慮し、コミュニケーションをとりながらゆったりと入浴できるよう支援していく。会話を含め、入浴時間が楽しみになるような支援を行っていく。
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午前・午後、または前の日の睡眠状況などを踏まえて休憩時間を設けるようにしている。休息や夜間、しっかりした睡眠が取れることで日中の活気に繋がっている様子が伺える。	○	休息についても本人が落ち着ける場所（ソファや居室など）を選んでもらい休んで頂く等、一人ひとりが安心できる場所での休息を今後も実施していく。また、夜間は寝巻きや下着などそれぞれ好きな格好で眠れるよう支援している。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自らの仕事であると自発的に家事参加等行われたり、毎日の日課となってきたりの方もおられる。家事参加などは見守り及び一部介助にて実施し、出来た時には感謝の言葉掛けをし、やりがいや張り合いを感じて頂けるよう支援している。	○	今後も個人様様の個性やバックグラウンドを踏まえた上、活躍の場や役割、楽しみごとを提供していく。また、同じ人が同じ作業を毎日やる事も重要だが、他の方も気兼ねなく参加できたり、様々な人が活躍できる場面作りを今後も実施していく。
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様了承の下、若干の金銭を持たれている方がおられる。希望に応じてその都度金銭を使用出来る支援を行っている。金銭を持つ事で安心したり、逆に金銭が足りない不安になる方もおられるので一人ひとりの状況に合わせた対応や、お金を持った以降の対応を適切に行っていく。	○	管理出来ない方にも買い物等に出かけた際には本人様の財布に金銭を入れ自身で支払いをして頂く等、安心や自信に繋げる支援を行っている。今後は本人がどれくらいのお金を持っていて、今後どれくらい使用できるのかなど金銭を考える事が出来るような支援も出来たらと思われる。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り個人様様の希望に沿った外出を支援しており、その日に実施出来ない場合でも近日常に実施したり、遠くではなく、近くを散歩するなど工夫しながら気分転換を図っている。外出の重要性などをスタッフは今後も理解して支援をしていく。	○	冬期間は比較的ホーム内に閉じこもりがちとなる為、安全面に配慮しながら可能な限り外出機会を持てるよう努める。また、受診などで外出する機会がある場合、普段から希望している場所へ出かけたり、外食をして帰ってくるなど臨機応変な対応を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々人様が行きたい場所を把握するよう努め、行事立案の際に希望を取入れたり、家族と共に出掛けられるような計画を家族と一緒に考えている。札幌ドームでの野球観戦や、温泉、動物園など希望を汲み取り実施、楽しませている。	○	今後も可能な限り要望や希望を実現できるよう支援していく。また、行事には家族も参加して頂けるような機会を増やして行き、家族と一緒に行事を楽しめるような機会を増やしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞等、自らペンを取り書かれる方がおられる。又、その様な場面作りや機会を設けている。電話も取り次いだり代わりに掛ける等、要望に応じた必要な支援を随時行なっている。普段なかなか出来ないことでもあるので今後積極的に実施していく。	○	手紙や電話は本人も家族も非常に喜んでいる場面を多くみるので、年賀状や暑中見舞いなどこちらから働きかけていき、大切な人との昔ながら馴染みのあるコミュニケーション方法で支援を行なっていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様や馴染みのある人が気軽に訪問でき、入居者様と共にくつろげるような雰囲気作りを目指している。いつでも歓迎の気持ちで迎える事に努めている。面会時に必要なものがあれば直ぐに提供できるようにしている。	○	今後も居心地良く過ごせる雰囲気作りに努め、コミュニケーションや情報交換等が円滑に、気兼ねなく行われる雰囲気作りや関係作りを継続して実施していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についての資料をスタッフ全員に配布し理解を得ている。日常で拘束が行われていないため普段から意識することは少ないので、今後も定期的に意識付けを行っていく。	○	今後も身体拘束は行わないのはもちろんであるが、言葉や薬でも拘束に繋がる事がある事を再度確認し、十分に注意、意識しながら支援を行っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム入口及びユニット入口はやむを得ず施錠している。(外部からの進入もある為など)ご家族様及び入居者様にはその理由を説明しご理解頂いている。	○	施錠については、危険の回避など(外部からの進入など)するため行っている。その中で、入居者には施錠をしている圧迫感を与えないように、外に出たい時などは、希望にそのような支援をしている。ただ、職員が不足している時間などは、対応が難しい時がある。今後も、入居者が圧迫間を感じないような支援を更に意識していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげない見守りを心がけ、過剰にならないよう注意し、安全を優先しながら関わっている。スタッフはさりげなく入居者の所在の把握に努め、均等に見守りができる位置で業務を行う等スタッフのポジショニングにも注意している。	○	今後も過剰な見守りにならないよう注意し、職員間でさりげなく声掛けを行いながら入居者様の様子を把握し、安全のための行動が必要な際は迅速な対応がとれるポジションにいるよう今後も努めていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・洗剤・刃物類については使用時以外決められた場所へ保管し、安全確保に努めている。裁縫の針が無いために不安になる方もおられるが、管理が出来ない為止む終えずスタッフが預かっており、随時本人に預かっている事を伝えている。家族にもその旨を伝えている。	○	個人様の持ち物についてはそれぞれの能力に応じ、本人様及びご家族様のご理解を頂いた上、安全確保の為の管理を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日頃より個人様々の状態に応じ、起こりうる事故を想定し、それらを未然に防ぐ為の対応を行っている。又、申送りや会議でも危機感を常に持てるよう確認や啓発をしている。	○	事故の再発を防止出来る様、事故報告書を活用している。又、ヒヤリハット事例を元に事故を未然に防ぐ対応策についても検討が行われている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に救命講習や避難訓練を実施している。又、緊急時対応マニュアルも整えており、全職員がその内容を熟知している。また、お餅を食べる前などにもスタッフ間で緊急時の対応を再確認してから提供する等、いざという時に備えている。	○	TVでのニュースなどで放送された事故などにも触れたマニュアルや防止策作りも行っている。今迄の事故や急変時等の事例を元に、より具体的な対応マニュアル等を作成して行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練の実施により災害対策について全職員が周知している。また、訓練内容についても都度状況を変え様々なケースを想定し実施している。	○	近隣の方々の協力体制についても運営推進会議を通して理解が深まってきていると感じる。今後更に訓練の中で緊張感を持ち、実際の災害を想定した様々な状況下での職員対応を養って行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	人居時及び都度の連絡の中でもリスクについても説明を行っている。自立支援を推進していく上でグループホームの機能を理解して頂けるよう努めており、現状としてご理解は得られている。今後とも随時家族との話し合いを行い、社会と離れる事などの本当のリスクなどについても話しをしていく。	○	自立支援を行う上でのリスクは特にプライベート空間で発生するケースが殆どであるが、入居者個人様々の生活スタイル等を把握し安全な環境整備に努める事で可能な限りリスク幅を軽減していきたい。本人の自由と転倒のリスクについても考えていき、対応を見極めていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタル測定及び観察により小さな変化も見逃さず早期発見、早期対応が出来る様努め、変化や異常のサインは記録し他職員へ速やかに申送り、その後の状態観察、対応に繋げている。	○	今後も迅速に適切な対応をとれるよう努める。又、自ら訴える事の出来ない方については特に注意して様子観察を行なっていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については随時処方されたときに添付されている紹介状をスタッフは確認するようにしている。またその薬に対する注意事項やDrからのアドバイスなどスタッフ全員が周知できるようにしている。	○	服薬管理については業務の一流れとして捉える事なく、複数の職員が確認出来、責任の所在についても明確としている。また、服薬方法も法人で取り決めた統一対応を行っている。今後更に処方箋変更時等に十分注意し対応継続していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を用いて排便状況の把握やその原因や影響の把握に努め、安易な浣腸や座薬等の使用は控えている。便秘時のトイレ内でのウォッシュレットの使用で刺激を与えたり、下剤使用している方には適切な量の下剤調整ができるよう支援している。	○	今後も食事・運動への取り組みを実施したり、定期的な排泄誘導を行い、自然排便が出来るよう支援継続していく。現在特にヨーグルトが効果的である。また、下剤が効きすぎて下痢にならないように下剤調整に十分注意し支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食に全員の口腔ケアは実施できてはいないが、夕食後は全員の口腔ケアに携わることが出来ている。自分で歯を磨く行為が出来たかにもさりげなく確認・仕上げをさせていただくなど口腔ケアに関わることが出来ている。	○	特に汚れや匂いが目立つ方には、毎食後などに随時口腔ケアを行い、確認・仕上げを行っている。今後も出来るところは出来るだけ自分で行っていただくなど本人の力を引き出す働きを行いながら支援していく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人様様の摂取量や栄養バランスを考えた食事提供を行い、一日の食事量、水分量を記録し摂取状況の把握に努め、状況に応じた支援を行っている。また、提携医療機関の栄養士がホームに来て栄養指導なども実施している。	○	摂取量の少ない方にはチョコレートやエンシュア等の補食について対応しており、水分・ゼリー・果物などで食べやすい食品や加工などで工夫をしている。また、おにぎりのように形態を工夫して食欲を引き出したり、食べやすいように配慮したりしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防対策に関するマニュアルや資料が整備されており、それに基づき予防の実践をしている。インフルエンザについては毎年予防接種を受けている。また、具体的には食前に手先の消毒を行ったり、手すりの消毒を定期的に行う等して予防に努めている。	○	感染症に関する知識と対応について、研修会等の参加により情報収集を行い、その内容を職員間で共有する事で更なる予防の徹底に努めていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品等は毎日漂白し清潔、衛生保持に努めている。食材はこまめに買い物に行く事で常に新鮮で安全な食材を使用し、冷蔵庫内は定期的に点検整理も行っている。	○	今後も冷蔵庫内の整理、点検を随時行い、食材の購入前の食材の少ない時（主に週末）には冷蔵庫内の清掃を継続して行っていく。食中毒防止を皆で意識し、清潔に努めていく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の草花を植え、日頃から周囲の環境を綺麗に保つよう努めており、親しみ易く安心して出入り出来る様な雰囲気作りを心掛けている。	○	今後、里の家がどういった場所であるか、どんな事を行っているかなどを地域の方々に知らせていけるような取り組みを行っていく。運営推進会議にて、GHとは？と認識が低い為、説明会を行ったほうが良いと意見が上がり、町内会の福祉委員会に参加させて頂き、簡単ではあるがGHの説明、認知症の説明などを行ってきている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は日頃より清潔保持に努めており、装飾等は過度にならない程度に行っている。また、照明、空気、湿度などにも配慮しており、快適な暮らしが出来る様、支援を行っている。	○	今後も汚れた場合等はすぐに対応し、清潔な空間で生活をおくれるよう支援していく。またスタッフの一方的な視点での空間作りなどに注意し、あくまで入居者様主体である事をスタッフは認識しながら快適な生活が営めるよう努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々一人になれる場所や、自然と他者の存在を感じられる場所にソファを設置する等の工夫を行っている。また、本人が気に入っている場所にさりげなく行けるような支援も行っている。	○	今後も安全確保に注意しながら個人様が思い思いに過ごせる空間作りに努めていく。また、同じ人がいつも同じ場所に居る事で、他の人がそこに座る事が出来ない等の状況があるので、意思や要望を汲み取りながらユニット全体のバランスを考えよりよい・過ごしやすい環境づくりを行っている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用されていた馴染みの家具や生活用品を持ち込んで頂き、本人様、ご家族様とも相談しながら個人様の個性が活かされた居心地の良い居室となるよう工夫している。	○	今後も日常生活に本人様、ご家族様と相談しながら懐かしみのある物品や馴染みある物品を取入れ、以前からの馴染みのある、その人らしい生活が継続できるように支援していく。また、馴染みの物品があることで安心感を感じているように思われる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	午前、午後に各1回以上5～分程度の換気を入居者の状況や室温、気温等を考慮しながら必ず行っている。また、匂いが気になるときや湿度、気温状況によっても随時換気を行っている。また、エアコンがあるため、適度な湿度調整も行えており、ユニット内が快適な空間になるよう配慮している。	○	各居室に温湿度計を設けており、適切な温湿度が保てるよう配慮している。また、結露や乾燥している状態などへの気配りを行い、入居者の状況に合わせてながら今後も適切な温度・湿度調整を行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	現在事業所内には必要箇所に手摺り等が設置されており安全な環境であると言えるが、身体介助の必要性がある方が多い為、設備を使用するより職員対応によるものが殆どである。	○	今後、入居者様個々の身体状況や認知力に合わせた環境整備に努め、入居者様が自身の能力を活かして生活出来る環境を目指したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗があった場合、さりげなくフォローし速やかにその原因の排除に努め、失敗が目立たなかったり、混乱する原因にならない工夫をし、落着いた生活を送れるよう配慮している。	○	今後も例えば掲示物は入居者様の目線に合わせてたり、認識しやすい色や、目立つ色、なじみのある物など利用することで混乱を防ぐなど、わかる力を引き出したり、活かせる環境作りを行っている。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの敷地内に畑があり、苗植え、水撒き、収穫等を入居者様と共に行っている。また、物干しなども設置し、なじみのある物で使いやすい工夫をしている。	○	駐車場も広く、時々皆で昼食をとったり、夏祭りや町内のおみこしの休憩場などとしても活用されている。今後もホーム周囲の空間を利用し入居者様が活動出来る様、安全確保を行いながら支援を継続していく。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)